

新型コロナウイルス感染症について(第八報)

～ 現在の状況から ～



保育園に関係する皆さま

各地で無事に新年を迎えられたことと思います。今年もよい一年でありますようにと願うとともに、世界的流行となっている新型コロナウイルス感染症の流行状況が落ち着いていることを願ってやみません。

2年前の1月16日、ちょうどこの冊子がお手元に届くころでしょうか、この日に日本では新型コロナウイルス感染症の一例目が報告されました。そのとき、誰も2年後を想像できたわけではありません。同じように、今後も誰も完全な予測はできないのです。では、不安に苛まされる辛い時間だけでしょうか。科学的に知見は得られてきています。保育園では、これまでのように、これからも「日常の衛生管理をしっかりと！」していきましょう。感染拡大兆候がみられたら、拡大防止策への切り替えです。本稿でも再度注意を促したいのは、商品や製品に頼った感染症対策ではなく、日常の衛生管理が大事であるということであり、このことはこの2年間全く変わっていません。

日々状況変化にしんどい思いをされてきたことと思います。しかし、決して「禍」だけの日々ではないと思います。子どもの笑顔のために、先生方も保護者も笑顔でいたいものです。しかしながら、現在オミクロン株と命名された変異株の動向は大変気になることです。感染症対策の観点から、現在新型コロナウイルス感染症について冷静に対応していきましょう。

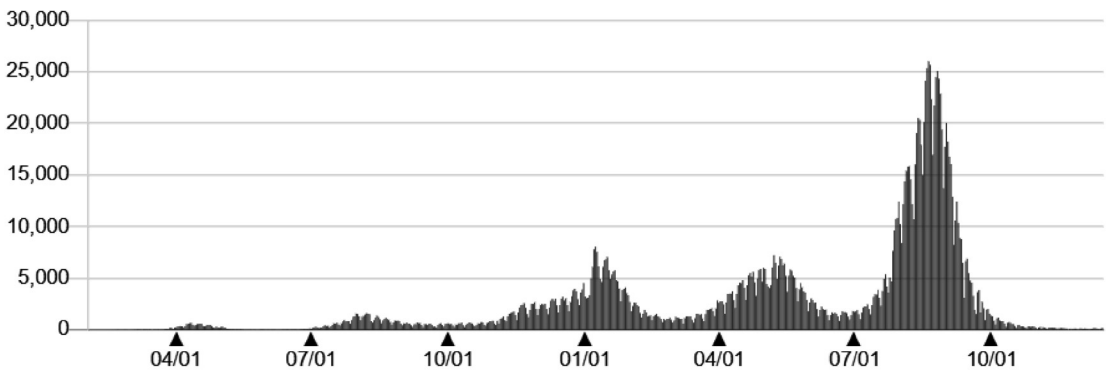
2021年12月20日現在の状況から
国立感染症研究所 菅原民枝 大日康史

■状況を冷静に受け止める。

この見出しは、以前にも書きました(保育界2021年6月号)。冷静に受け止めるということはどういうことでしょうか？

繰り返しになりますが、新型コロナウイルス感染症の対策は、①最新の発生情報を収集すること。②基本的な感染症の対策を徹底すること。③子ども及び保護者・職員が差別的な扱いを受けることがないようにすること。これらの3つの事項は変わらない視点であり、状況を冷静に受け止めるための実践です。

次頁のグラフは、「データからわかる—新型コロナウイルス感染症情報—」での新規陽性者のグラフです。日々更新されています。長期的にみると、全国ではこの2年間で5回の波があるようにみえます。今後、6回目の波が来るかもしれませんし、もっと感染者が多くなると、最初の波は見えなくなるかもしれません。しかし、どのような状況になるにせよ、保育園の対応は「日常の衛生管理をしっかりと！」であり、先の3つの視点を持ち続けて実践し、そして、先生方も保護者も笑顔でいることが何よりも子どもにとって大事なのではないかと思います。



出典：https://covid19.mhlw.go.jp/

最新の「情報」としてこれまでもご紹介してきましたが、今、初めて本誌を手にとってください方のために復習をしましょう。

(1) 文部科学省による学校の調査結果（学校関係者における新型コロナウイルス感染症の感染状況令和3年12月7日）(https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00829.html) では、児童生徒の感染状況、児童生徒の感染状況（感染経路）、教職員の感染状況（感染経路）、同一の学校において複数の感染者が確認された事例の状況の報告があります。

保育園にとって、最も身近な存在は、きょうだい関係である小学生です。今後も動向に注意をしていきましょう。感染者数は、いったいどれくらいの割合なのかという「罹患率」を出すためには、分母の情報（在籍者数）が必要なので、文部科学省の文部科学統計要覧を使って罹患率をみるとよいです。冷静に判断をすることができます。他の年齢層と比較してみるとよいです。

感染者の学校での拡がりについては、今でも最も関心のあるところですが、新型コロナウイルス感染症の学校の報告件数と学校数によって発生率をみるとよいです。

(2) 日本小児科学会 (https://www.jpeds.or.jp/) による「COVID19 日本国内における小児症例 COVID19 日本国内における小児症例」では、ダッシュボード（さまざまなデータが一覧で示されている）になっており、登録があれば、情報（グ

ラフ等）が更新される仕組みとなっています。「先行感染者」（感染源と思われるが断定はされていない者）という円グラフを参照しましょう。

(3) 都道府県ごとに公表されている情報も参照しましょう。「データからわかる—新型コロナウイルス感染症情報—」も都道府県ごとに切り替えて参照ができますので、特に県境にお住いの場合には、隣の自治体を参照することをお勧めします。

■衛生管理を「徹底」していくことは、とても難しい

日常の衛生管理は難しいと思わせる『あるある話』を紹介します。しないといけないことをおろそかにし、しなくてもよいことをしている場合です。魔法のようなことができると信じてしまっ、衛生管理の徹底が全くできていないという事例でもあります。

①手洗いが重要だとわかっているも・・・

手を洗う環境が十分に整っている保育園であるにもかかわらず、手指消毒をすることで、手洗いをした気になってしまう。

この事例は実態調査をすると結果に現れます。現在の状況下で、手指消毒をすることがあたりまえになってしまっているからという理由も考えられますが、日常的に園児も職員も手指消毒をしているようです。こうした思い込みは、根本的に手洗いという感染予防策についての認識、「手や指に

ついたウイルスの対策は、洗い流すことが最も重要」ということを忘れてしまっているのではないかと思います。しかも、この手指消毒に使っていた消毒薬は、手指消毒として科学的に評価されたものではないことがあります。もしかしたら、これを使えば完全にウイルスに対応できるとか、手洗いをしなくてもよい方法などと魔法の薬のように勘違いをしてしまっているのではないのでしょうか。

また、手洗いをして、その後手指消毒といったことがセットになっている場合も多くみられます。日常的には手洗いの後、さらに消毒薬を使用する必要はありません。必要があるときは、園内で感染症が発生している、或いは近隣で発生しておりすでに園内に持ち込まれている可能性があるような場合です。手洗いがなぜ最も重要なのかということ、改めて考えましょう。「手や指に付着しているウイルスの数は、流水による15秒の手洗いだけで1/100に、石けんやハンドソープで10秒もみ洗いし、流水で15秒すぐと1万分の1に減らせます。」という解説(新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について(厚生労働省・経済産業省・消費者庁特設ページ))も参考にしましょう。

②感染症に効果があるという消毒薬や製品を買ったことで・・・

効果があると謳われているような消毒薬を購入したり、効果があるような感じに広告されている「もの」等を購入してしまったりすることで感染症対策をした気になってしまう。

この事例も実態調査をすると結果に現れます。新型コロナウイルス感染症の国内発生2020年春ごろには、アルコール消毒薬の流通不足となりました。不足しているという事態に、消毒薬を購入したいのにできない背景もあり、様々な消毒薬の製品が登場しました。おそらく購入されたこともあったかと思いますが、実態調査してみると、成分表示が確認できず、期限表示も確認できないものがあつたとあります。先ほどの手指消毒薬と同じように、全てに効果があるかのような、科学

的な根拠もないものを使うことで、感染症対策をした気になってしまうことは恐ろしいことです。もしかしたら、魔法の薬・製品のように勘違いをしてしまっているのではないのでしょうか。中には、〇〇をぬっておけば大丈夫!といった製品や、〇〇のスイッチを入れれば対策ができます!謳い文句の製品を勧める方がおられるかもしれません。それを購入すれば安心ですか?本当に大丈夫ですか?これまでも、これからも、私どもはそうした製品を購入されたとしても全く責めることはしません。おそらく購入することになった経緯で、不安や心配事があったのではないのかなと思うからです。それを購入することは必要ではないとそれぞれの保育園で気が付いてほしいですし、そうした高額な製品を購入するよりも、日々の衛生管理に用いる消耗品や医薬品・医薬部外品の消毒薬を購入してほしいと思います。何よりも、科学的な視点をもって検討していただきたいと願って研修等で説明し続けます。

感染症対策は、日常の衛生管理と感染症拡大防止策を切り分けることが大事であり、日常の衛生管理では、お掃除が大事です。ホコリやゴミだらけなのを放置して、消毒薬を振り撒くようなこと、何かをぬって安心してしまうこと、何かのスイッチを入れてだけでは、意味がありません。購入することで、感染症対策をしたような気になってしまうことは、まったくしていないのと同じことになってしまうことに、どうぞ気が付いてください。

③目的がわからないけれども、していること・・・

消毒薬を入れたスプレーボトルを多用し、あらゆるものにスプレーでシュッシュッと噴霧して消毒をした気になってしまう。

この事例で多いのが、食事用のテーブルとおもちゃです。テーブルは水拭きをしてホコリやゴミのないテーブルであればよいのに、スプレーでシュッシュッとふきかけていたり、おもちゃは午前と午後で交換をして水洗いで干せばよいのに、スプレーでシュッシュッとふきかけていたりするようです。これらは、消毒をしたような気になって

いる方法です。そして、毎日毎晩消毒が大変で…と嘆く声を聴きますが、なぜ不要なことをして嘆いているのだらうと思います。このように、何の為にしているのかわからないけれども消毒をしたような気になっていることがあるようです。挙げ句の果てには、空間に向かってシュッシュとしたらその場が消毒されたような錯覚に陥ってしまうようです。

一方で、このスプレーボトルの多用による危険性は増加しており、頻回に使用するために使用時の注意を忘れがちです。スプレーは、噴霧する装置のことですから、消毒薬を噴霧することは目を傷めたり、皮膚に付着したり、吸い込んでしまって呼吸困難になったりすると身体に危険なことが伴います。消毒をするときは、適切は用法用量を守って、消毒薬につけた布巾で拭きましょう。感染症拡大防止策のときは、この消毒の回数を増やしたり範囲を広くしたりします。

何のために…？と冷静に考えればしないことを、何故してしまうのでしょうか。「やったつもり安心感」に包まれてしまっているのではないのでしょうか。

このように、しないといけなことをおろそかにし、しなくてもよいことをしがちなのは、不安であるという心理的な背景があるように思います。一方で認識に自信がないことの現れでもあるのではと思います。不安な気持ちと、自信がない気持ちは、表裏の関係のようにも思いますが、不安の払拭、自信をもつためには、意識的に感染症対策の目的をいつも確認することだと思います。集団感染を予防するためには、保育室も、テーブルも、トイレも、おむつ交換も、おもちゃも1つ1つ丁寧に、衛生管理の対応をしていくことです。新製品の消毒薬や、新製品の効果があると謳われている何かを使うことなでもなく、消毒をした気になることなでもなく、誰かに見せるための、一時的なパフォーマンス的な対応でもなく、感染症対策はととても地道なものです。パフォーマンスをする必要はありません。誰かに見せるものではなく、いつものように、着実に実施することです。

だから、日常の衛生管理を「徹底」することは難しいことなのです。誰も見ていないところでも、誰も知らないところでもしっかりすることは、実は緊張感が伴います。その緊張感があるからこそ、有事の際にも役立つのです。衛生管理の徹底は、真面目なことであり、新型コロナウイルス対策だけに行うものではありません。

■コロナ「禍」なのか

さまざまな文章でコロナ禍という言葉を目にするようになりました。この言葉は、感染症対策の用語ではありません。新型コロナウイルスの感染拡大で引き起こされるさまざまな経済的社会的影響などの状況を伝えることができるからと報道で使われていると思います。英語の報道では、「pandemic」を使っています。文脈上、この「pandemic」という言葉のかわりに使っているのかなと思うことがあります。新型コロナウイルス感染症の影響で従来通りのことはできなくなった、とか、新型コロナウイルス感染症の流行で制限があるようになった、という意味をもっているのだとは思いますが。

「新型コロナウイルス感染症」は、法律上定められた病名です。英語表記は「COVID-19」です。この英語表記は、世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルス感染症の正式名称を「COVID-19 (coronavirus disease 2019)」とすると発表しました。ウイルス名は「SARS-CoV-2」です。

現在、経済的社会的影響は大きく、制限の多い生活です。しかし「禍」だけの日々なのでしょう。か？禍というのは、災いと同じです。

保育園では、行事やイベントが思うようにできないことはあったと思います。保育園の先生方は、自分が感染してしまったら大変だからと出かけることも外出もせず、旅行や食事会も控えておられたと思います。友達にも会えず、家族にも会えず、制限が多かったに違いありません。

しかし、状況をよくみていけば、最初のグラフにあったように、波の大きさは違いますが、増減を繰り返しています。つまり、流行拡大期は致し

方ないこともあったかと思いますが、減少期になれば、流行が落ち着いたところでは、注意をしながらの行動に変えることもできます。

行事は多くの人が集まるので、保育園での保護者同伴の活動や保護者参観等は高い感染リスクにはなるので感染症対策をしたうえで、オンライン等も活用して、新しい方法に取り組んでいます。これは、新しい対応策の幕開けなのではないでしょうか。苦労も多かった分、工夫を重ねて、できることをしていこうという勇気がわき、前向きに進もうとしているのではないのでしょうか。

私どもがすべき対応は、保育園の子どもたち、職員の健康を守っていくことです。健康を守ることは、みんなの笑顔につながります。どうぞ子どもたちと楽しい毎日をお過ごしいただきたいと願っております。

■さいごに

新型コロナウイルス感染症の変異株についてご心配も多いと思います。WHOは2021年11月24日に新たな変異株を「オミクロン株」と命名し、懸念される変異株に位置づけています。日本でも、国立感染症研究所が評価し、監視体制の強化を開始しています。

現在（2021年12月17日）得られている知見では、2021年11月24日に南アフリカからWHOへ最初のオミクロン株による感染例が報告されて以降、日本を含め全世界76か国から感染例が報告されています（12月14日まで）。複数の国で市中感染事例の報告が増加して広い範囲での感染拡大の可能性が懸念されています。日本での発生状況は、海外からの帰国者32例が報告され（12月15日まで）積極的疫学調査が行われています。16例の入院例では無症状者4例、有症状者12例です。

オミクロン株のウイルスの性状や疫学的な情報は限られているので、重症度、年代別の感染性への影響、ワクチンや既存の治療薬の効果についてはまだわかりません。海外でも重症例の報告はほとんどなく、弱毒化している可能性があります

が、日本人、特に高齢者や小児でも弱毒化しているかどうかの知見はまだ乏しく、今後注視していく必要があります。もし日本においても高齢者や小児でも弱毒化していれば、感染力が高くても重症化しにくいのでこれまでの対策は必要がなくなる可能性があります。現状予断は許されません。今後の動向が注目されます。

現在のところ推奨される対策は、これまでと同様の基本的な感染対策です。「個人の基本的な感染予防策としては、変異株であっても、従来と同様に、3密の回避、特に会話時のマスクの着用、手洗いなどの徹底が推奨される。」ので、動向に注意をし、大きな流行に備えておきましょう。あわてないで、冷静に、お願いいたします。

いずれにせよ、保育園の感染症対策は、新型コロナウイルス感染症だけではないので、日常の衛生管理をしっかり！していきましょう。

出典：国立感染症研究所 SARS-CoV-2の変異株B.1.1.529系統（オミクロン株）について（第4報）<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2551-cepr/10833-cepr-b11529-4.html>